

IRの成果の中間報告

ツールソフトPower BIを利用した
卒業生・退学者の分析と「見える化」への取組

社会連携学術推進室（IR分室）

齊藤 克治、福土 憲一

本データは報告会の内容から抜粋したものとなります

▶ 本日の内容について

- ▶ 背景と目的
- ▶ 利用ソフト
- ▶ 利用したデータ
- ▶ 4年間で卒業した学生の分析例
- ▶ 退学した学生の分析例
- ▶ 研究IRについて
- ▶ 今後の課題

1. 背景と目的

IRの1stステップとして

「見える化」

- 「なんとなく」から数値化へ
- 今後の改善点を検討する際の一助に
- 最初はデータの傾向など大まかに把握
- その後、気になる部分など詳細分析

2. 利用ソフトについて

- Microsoft社のPower BI
 - Excelのピボットテーブル+ Accessのクエリ
 - 基本的にPCやタブレット上での操作が前提

PowerBIはダウンロードすることで、だれでも無料で使えます。 (<https://powerbi.microsoft.com/ja-jp/>)

※使える機能は制限されるようですが、特に問題ないと考えます

3. データについて

学生情報に利用したデータ

- 入試課・教務課・基礎教育研究センターの提供
 - 受験申込時の情報（出身校や入試区分など）
 - GPAや開講試験（オープニングテスト、以下OPT）
 - 休学、退学、除籍、留年（復学）、転入・編入・転学科

※2017年度時点での学科名称となっています

研究情報に利用したデータ → 研究業績（11月末にて各教員からの提出）

3. データについて

卒業生データ

- a. 2011～2013年度入学生で、休学・復学・留年がなく、4年間で卒業した者
- b. 2014年度入学生（データ収集時4年生）で、休学・復学・留年がない者
- c. 転入・編入・転学科の学生でない者

※データ収集時期は2017年11月最新

退学者データ

- a. 2011～2016年度入学生で、退学・除籍した者
- b. 退学理由が転学科でない者（データが2重になるので）

※データ収集時期は2017年11月最新

4. 成績のランクについて

OPT・年度GPAの値を、解りやすく区分。授業の成績評価で通常用いるS~Dでランク区分。

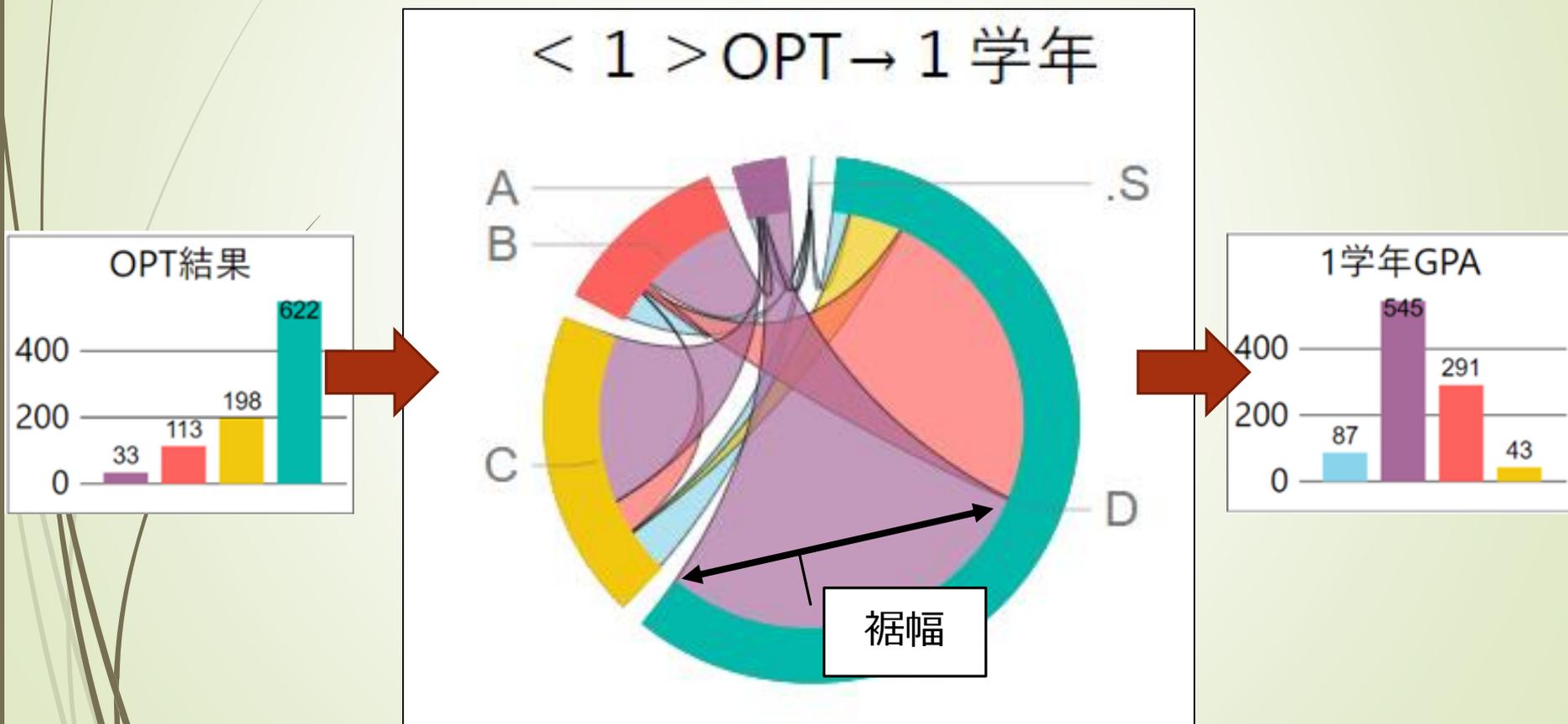
工学部5教科（国、英、数、物、化）
感性デザイン学部2教科平均（国・英）

ランク	OPT平均点	年度GPA	GP（参考）
.S	90~100	$3.5 \leq .S$	4
A	80~89	$2.5 \leq A < 3.5$	3
B	70~79	$1.5 \leq B < 2.5$	2
C	60~69	$0.5 \leq C < 1.5$	1
D	0~59	$D < 0.5$	0

注) Sに「.」を付けているのは、ソフトの自動並べ替えなどの都合による。

5. 卒業生分析例

- 単なる分析の棒グラフ以外の表現を活用



Power BIの視覚化から「Chord」というもの「コードダイアグラム」とも呼ばれている。

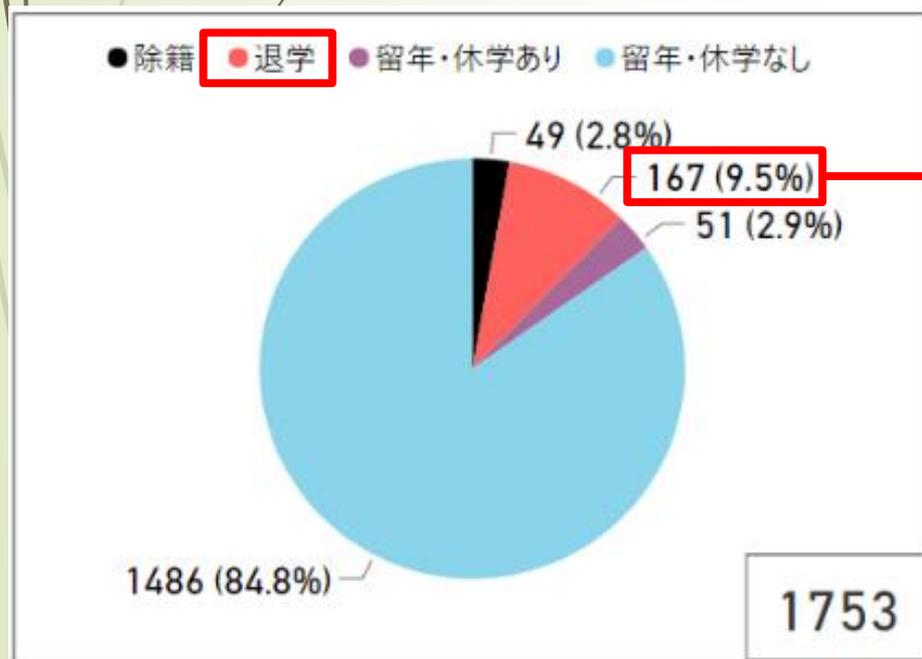
6. 退学者分析例

退学者データ

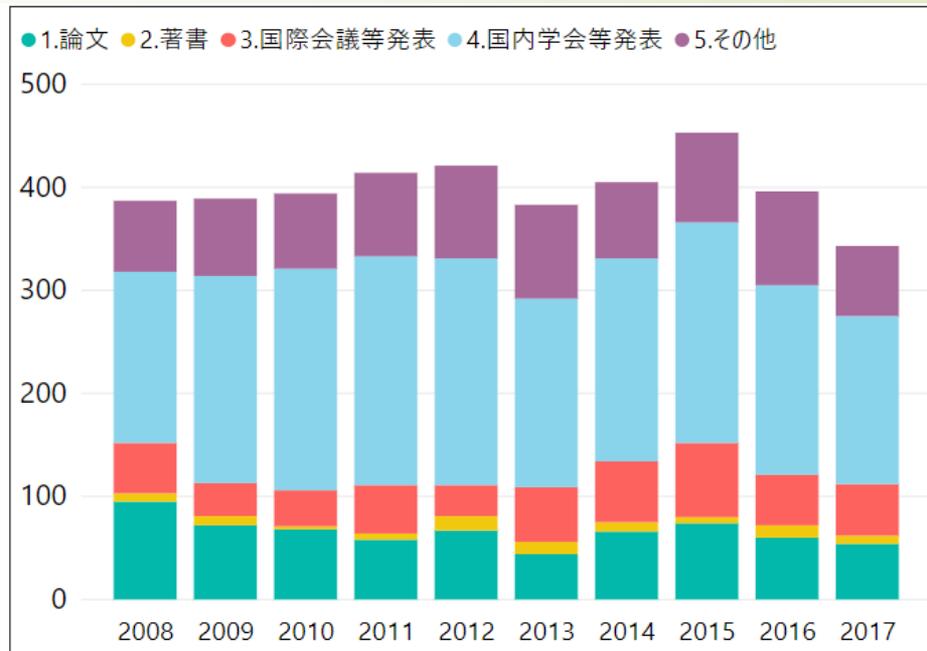
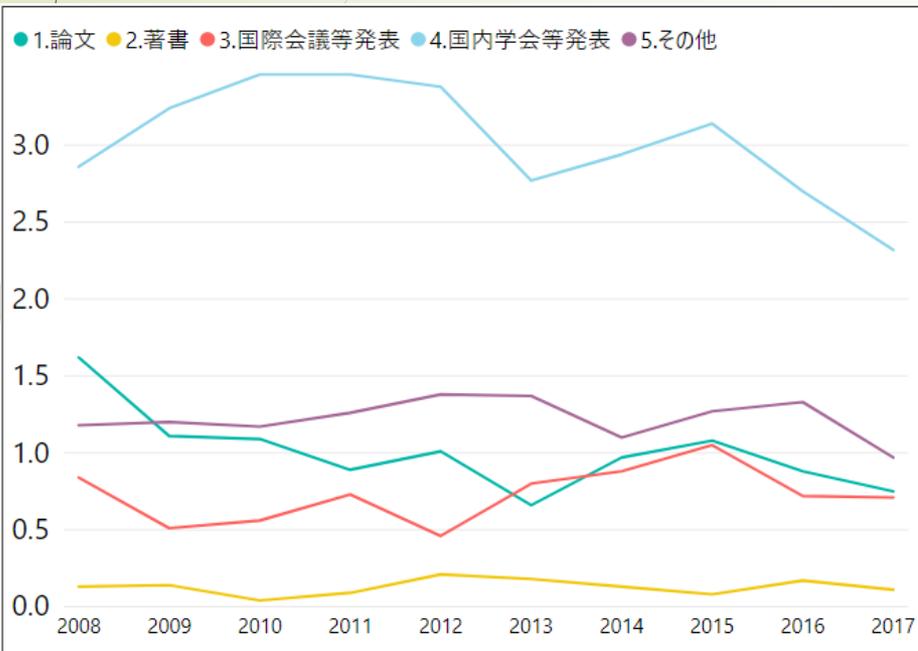
- a. 2011～2016年度入学生で、退学した者
- b. 退学理由が転学科でない者（データが2重になっているので）

※データ収集時期は2017年11月最新

退学・除籍などの全体割合について



7. 研究業績IR



区分	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
1.論文	1.62	1.11	1.09	0.89	1.01	0.66	0.97	1.08	0.88	0.75
2.著書	0.13	0.14	0.04	0.09	0.21	0.18	0.13	0.08	0.17	0.11
3.国際会議等発表	0.84	0.51	0.56	0.73	0.46	0.80	0.88	1.05	0.72	0.71
4.国内学会等発表	2.86	3.24	3.46	3.46	3.38	2.77	2.94	3.14	2.70	2.32
5.その他	1.18	1.20	1.17	1.26	1.38	1.37	1.10	1.27	1.33	0.97

研究業績の区分	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	合計
1.論文	94	69	68	57	66	44	65	74	60	53	650
2.著書	8	9	3	6	14	12	9	6	12	8	87
3.国際会議等発表	49	32	35	47	30	53	59	72	49	50	476
4.国内学会等発表	166	201	215	222	220	183	197	214	184	163	1965
5.その他	69	75	73	81	90	91	74	87	91	68	799

8. 今後の課題

分析結果の精度向上と内容充実

- 入力データ内容追加など
- データ管理と分析の体制

目的別のIRの推進

- 入試・募集、研究業績など

Power BIの学内普及

- 講習会等の実施
- 各部局での資料作成へ

まずは、学内の皆さんからの
「ここが見たい」という意見があって進められると考えます。